

Review

Conferences
& Lectures

Research
Activities

[東洋文庫アジア資料科学研究シリーズ 2014年度]
東洋のコディコロジー (Codicology) III
——文理融合型東洋写本・版本学 (講習会) ——

非漢字文献 II

1 概要

「東洋のコディコロジー」シリーズではアジア諸言語の文献を「漢字文献」と「非漢字文献」に分けて講習会を行っている。すでに中国、朝鮮、日本及びベトナムで通用する漢字文献、敦煌出土の漢字文献とモンゴル語、ウイグル語及びチベット語といった非漢字文献、さらに日本で出版されたキリシタン版の日本語文献をとりあげてきた。本年度は、東洋文庫が多数所蔵する満洲語文献と岩崎コレクションの日本語文献について講義を行った。

第1日「満洲語文献」では、東洋文庫東北アジア研究班清朝満洲語檔案史料研究チームが取り組んでいる満洲語の資料を用いて、その資料研究の成果と世界での取り組みを併せて体系的に分類し、内容の紹介を行うことで満洲語文献について総合的に理解し、東洋文庫が所蔵する資料の価値を考える。

まず、杉山清彦氏による「満洲語と満洲語文献の世界」では、満洲語とその文献についての基本的知識として、歴史的背景と民族の特徴を解説し、漢文とモンゴル文字との共存および関連性を含めた満洲語文献の特徴と清朝史を知る文字資料としての価値について理解する。

その講義を踏まえ、中見立夫氏の「満洲語文献への注目と、東洋文庫における満洲語文献の収集と研究」では、地域ごとの満洲語への取り組みと、他の所蔵機関との比較を行い、東洋文庫での活動と研究成果について紹介する。また、研究テーマ別に満洲語資料を分類し、各資料の特徴を学ぶ。

最後のまとめとして、加藤直人氏の「世界の満洲語資料と東洋文庫」では、書誌としての満洲語文献の分類と特徴を理解し、他の所蔵機関と併せて東洋文庫の資料の利用方法を考える。

第2日「日本語文献」では、東洋文庫日本研究班を中心として岩崎コレクションの中の日本語文献を調査研究した成果の一部を紹介する。まず、石塚晴通氏が「岩崎文庫本」で、『岩崎文庫貴重書書誌解題』シリーズ (I～VII) にまとめた成果から、東洋文庫所蔵の古写本、古刊本、古活字版などの代表的な文献について総合的に解説する。

深沢眞二氏の「江戸期版本の書誌調査」では、図書資料調査票を用いて和装本を調査する方法を実習する。各受講者は巻き尺、鉛筆および消しゴムを準備し、各人一冊の江戸期版本 (丹緑本) を用いて資料を調査しながら、版本の特徴と扱い方についての理解を深める。

石川透氏の「岩崎文庫絵入本」では、室町時代末期から江戸時代にかけての写本を使い、奈良絵本と絵巻の特徴について見ていく。特に、仮名文字と挿絵に注目して他館所蔵の写本と比較し、絵本制作者と画家の特徴から、写本の文化とその研究方法について考える。

「満洲語文献」と「日本語文献」の各講義の最後に、講師全員による資料説明および質疑応答を設け、東洋文庫の資料研究の展望について議論が交わされた。

2 プログラム

第1日 10月31日（金）満洲語文献

10：30～11：40 満洲語と満洲語文献の世界

杉山 清彦（東洋文庫研究員・東京大学准教授）

13：00～14：10 満洲語文献への注目と、東洋文庫における満洲語文献の収集と研究

中見 立夫（東洋文庫研究員・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授）

14：20～15：30 世界の満洲語資料と東洋文庫

加藤 直人（東洋文庫研究員・日本大学副学長）

15：40～17：00 資料説明と質疑応答

第2日 11月1日（土）日本語文献

10：30～12：00 岩崎文庫本

石塚 晴通（東洋文庫研究員・北海道大学名誉教授）

13：00～14：30 江戸期版本の書誌調査

深沢 眞二（東洋文庫研究員・和光大学教授）

14：40～16：10 岩崎文庫絵入本

石川 透（慶應義塾大学教授）

16：30～17：30 総合討論

3 講演内容

満洲語と満洲語文献の世界

杉山 清彦

（東洋文庫研究員・東京大学准教授）

満洲語と満洲文字についての基礎的な知識として、歴史的背景と民族の特徴、漢文とモンゴル文字との共存および関連性を含めた満洲語文献の特徴を学び、清朝研究における史料的价值と重要性について考える。

1. 満洲語と満洲文字

1) 満洲語：アルタイ系のツングース諸語の一つ

2) 満洲文字：表音文字，無圈点文字（老満文），有圈点文字（新満文），ローマ字転写法（メレンドルフ式）
1644年入関以降，清の公用語・公用文字として清一代を通じて使用

3) 近現代の満洲語：漢化言説，口語の衰退，満洲語方言のシベ語

2. 清朝と満洲語文献

満洲語文献の特徴：ツングース系で唯一の歴史文献，アルタイ系諸族の中で膨大な数量，公的な文書・典籍（私的著述が皆無），大量の翻訳文献（行政上の必要）

1) 清朝の支配体制と満洲人：八旗制，旗人

2) 満洲語と満洲語資料

・満洲語：帝国の第一公用語，合璧（満洲語＋他言語），翻訳と繙訳

- ・公文書：檔案（上諭，題本，奏摺，誥命など八旗関係，外藩関係，外交文書）
- ・典籍：『満文老檔』『満洲実録』『八旗通志』『五体清文鑑』
- ・碑誌：墓誌，墓碑，神道碑
- ・満洲語文献と日本：荻生徂徠，高橋景保など満洲語研究

3. 満洲語文献と資料研究

満洲語文献の所蔵機関，辞書，文法書

満洲語史料の重要性：格・時制が明確，意味が確定しやすい，満文のみの記載や文書の存在，独自の社会・言語空間を知る意義，共通語・国際語としての役割と意義

満洲語文献への注目と，東洋文庫における満洲語文献の収集と研究

中見 立夫

（東洋文庫研究員・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授）

世界および日本における満洲語文献に対する関心の特色および所蔵状況と，東洋文庫における満洲語文献の収集と研究について理解する。

1. 満洲語文献に対する着目のはじまり

ロシア帝国，ヨーロッパ諸国，朝鮮王朝，琉球王国，日本

2. 世界に散在する満洲語文献

ロシア・ヴァチカン型，日本・米国型，モンゴル国

3. 日本の図書館等に所蔵される満洲語文献

東洋文庫，学習院大学，天理図書館，京都大学，大阪大学，東京外国語大学，関西大学など

4. 代表的満洲語文献

1) 仏陀の教えを伝える『満洲語大蔵経』

高楠順次郎のテキスト校訂，フックスの調査

2) 歴史を記す『満文老檔』『満文原檔』『満洲実録』『五体清文鑑』『内国史院檔』

中国第一歴史檔案館，訳註，東洋文庫本

3) 旗人のおもいを伝える『百二老人語録』

満漢合璧鈔本，満洲語鈔本，漢語鈔本

5. 日本における満洲語文献に対する関心の特色

日本：内藤湖南（最初の研究者），東洋史学者（清朝史研究者，清代モンゴル史研究者）が多く，言語学者は少ない（生きた言語ツングース系言語とシベ語への関心）。ただし，清朝・中国関係典籍・文物の保存では危機的状況

欧州：文献学を中心とした「満洲学」や「モンゴル学」の学問的系譜があるが，絶滅状況

北米：清朝史研究者の中に関心が現れる

世界の満洲語資料と東洋文庫

加藤 直人

(東洋文庫研究員・日本大学副学長)

満洲語の文書形態の種類と内容を理解し、世界および日本での満洲語研究の現状を把握し、東洋文庫の資料の利用方法を考える。

1. 満洲語書籍

- ・清初の記録：書写資料

「崇徳四年戸部禁煙葉告示（満漢文）」「Manuscript 61626」（「後金檄明万曆皇帝文」の満文版）タチアナ・パン、ジョヴァンニ・スターリの研究

- ・満洲語書籍（刊本）：清朝の入関以後に刊刻されたもの

- 1) 満洲語書籍の出版：刻本，約 2,000 種類

殿版，坊刻本，坊刻本の出版元，私家版

- 2) 満文書籍の形態

刊本，抄本，石印本，排印本，清抄，満文と他の言語（二体本，満漢本 [合璧]，三体本，四体本，五体本など）

- 3) 満文のローマ字転写法：メレンドルフの方式，『無圈点字書』

- 4) 満文書籍の分類法：欧米式，四庫分類

- 5) 欧米，ロシアの満文書籍

- 6) 満洲語書籍（抄本）を介して中国古典文学に接した人々

2. 石刻資料

- ・「牛莊城東門門額」「東京城小西門門額」

- ・廣瀬洋子編『東洋文庫所蔵中国石刻拓本目録』

- ・黄潤華，屈六生主編『全国満文図書資料聯合目録』

3. 満洲語の文書

清朝の人民統治・支配貫徹に重要

- 1) 清代の満洲語文書の種類と整理

「米国議会図書館所蔵 Barrett Collection 目録」

- 2) 満洲語文書研究との出会い

北京中国第一歴史檔案館，台北国立故宫博物院，台北中央研究院歴史語言研究所，遼寧省檔案館に所蔵文書

- 3) 東洋文庫所蔵の満洲語資料

「平定準噶爾方略」「平定両金川方略」「百二老人語録」「大清律例」「掌儀司檔冊」「鑲紅旗満洲都統衙門檔案」

- 4) 東洋文庫と満洲語文献研究

東洋文庫満洲語文献研究グループの研究：「満文老檔」「満文原檔」「旧満洲檔」「内国史院檔」

使用資料：

『鑲紅旗満洲都統衙門檔案』『平定準噶爾方略』（図1）『百人老人語録』『黒竜江鑲藍旗達呼爾佐領』『大清穆宗毅皇帝実録』『舊満洲檔』『満洲実録』『満文老檔』『五体清文鑑』など

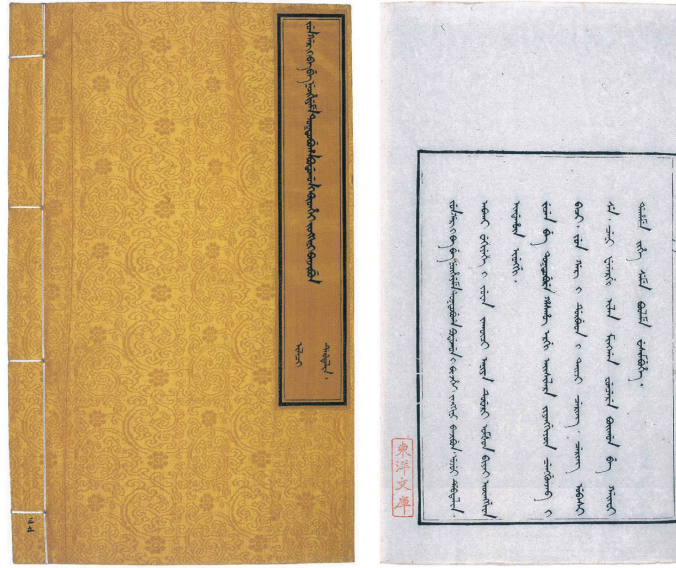


図1 『平定準噶爾方略』清乾隆37年(1772年)((公財)東洋文庫所蔵)

岩崎文庫本

石塚 晴通

(東洋文庫研究員・北海道大学名誉教授)

東洋文庫所蔵の岩崎コレクションの中の和書について、東洋文庫が編集した目録および解題等から代表的な書籍の特徴を理解する。

1. 岩崎文庫

- ・岩崎久彌蒐集 大正6年10月寄託旧モリソン文庫(→大正13年11月改称東洋文庫)
- ・昭和7年11月寄贈東洋文庫
- ・『岩崎文庫和漢書目録』昭和9年12月刊
- ・古写本, 古刊本, 古活字版, 江戸後期及びその後の刊本写本, 朝鮮本, 支那刊本, 広橋本

2. 岩崎文庫貴重書書誌解題

1) 『岩崎文庫貴重書書誌解題 I』平成2年5月刊

- ・古写本之部, 古刊本之部
- 『毛詩』国宝, 初唐写日本延喜頃訓点(古明経点)
- cf. 『古文尚書』国宝, 初唐写日本延喜頃訓点(古明経点)
- cf. 『岩崎本(現京都国立博物館蔵)日本書紀』国宝, 平安中期写訓点(古明経点)
- cf. 『梵語千字文』唐9世紀写日本平安中期点(東大寺点)

- ・料紙の科学的分析
- 『字鏡, 和訓字書』

2) 『岩崎文庫貴重書書誌解題 II』平成10年3月刊

- ・古活字版之部《国書》
- 『万葉集』活字付訓本
- 『方丈記』嵯峨本, 雁皮紙, 雲母刷下絵

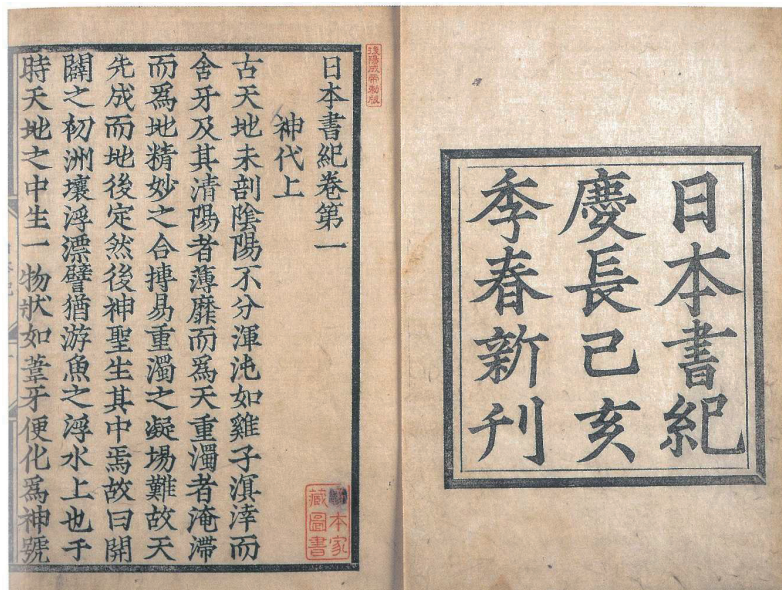


図2 『日本書紀』慶長4年（1599年）（（公財）東洋文庫所蔵）

- 3) 『岩崎文庫貴重書書誌解題 Ⅲ』平成12年4月刊
・古活字版之部《漢籍》
『尚書（抄）』宣賢抄古活字版
- 4) 『岩崎文庫貴重書書誌解題 Ⅳ』平成16年3月刊
・Iの補遺 広橋本残置文庫分，古写・古刊本，中国写本
- 5) 『岩崎文庫貴重書書誌解題 Ⅴ』平成19年3月刊
・江戸期及其後の刊本写本 和歌文合集，各時代に互る歌集歌話
- 6) 『岩崎文庫貴重書書誌解題 Ⅵ』平成22年3月刊
・万葉集関係書
- 7) 『岩崎文庫貴重書書誌解題 Ⅶ』平成25年3月刊
・江戸期成立の歌書

使用資料：

『字鏡，和訓字書』『万葉集』『方丈記』『日本書紀』（図2）

江戸期版本の書誌調査

深沢 眞二

（東洋文庫研究員・和光大学教授）

東洋文庫所蔵の江戸期版本（丹緑本）を用いて，資料の扱い方および資料調査の方法を実習し，和書の種類や特徴を理解する。

1. 国文学文献資料調査

国文学研究資料館『国文学文献資料調査要領』と「細目調査カード」

2. 使用資料

『義経記』『京雀繪入』『あかし』『あくちの判官』『ときは問答』『文覺』

3. 調査内容

- 1) 写本・刊本, 所蔵者名
- 2) 外題: 題簽・直 [打付書], 書写 [書き題簽]・印刷 [刷り題簽], 原の物・後で補われたもの, 左肩・中央, 単辺・双辺
- 3) 内題 (巻首題・端作題) 見返し題 (版本), 封面書名, 扉題, 序跋題, 目録題, 巻首題 (端作題), 尾題
- 4) 柱: 第一冊の本文第一丁, 臨模する
- 5) 刊写年時: 刊本 (製版・古活字本・木活字本・活版), 写本 (版本の臨模, 版下本), 数字の年号, 時代区分 (鎌倉・南北朝・室町 [安土桃山]・江戸・明治/前期・後期・初期・中期・末期・極初期), 寄合書・取合せ本 (補記に具体的に記入)
- 6) 表紙 (原装・元表紙 [補修を含む]・後に補われたもの・元表紙と新表紙)
- 7) 装訂 (卷子本・折本・列帖装 (ノート綴じ・胡蝶装・綴葉装)・袋綴じ本 [線装本]・仮綴じ本・その他 [旋風葉・粘葉・晷物・大和綴・折紙綴])
- 8) 見返し紙 (通常の版本にはなし)
- 9) 料紙 (楮・鳥の子 [雁皮]・薄様・楮), 色・文様 (色変り, 内曇り, 罨紙, 雲母引き・具引き・菊花紋透かし)
- 10) 数量 (軸・帖・冊・枚)
- 11) 寸法: 前表紙の縦・横, 匡郭 (単郭・双郭) 内法
- 12) 字高: 匡郭のない版本・古活字本は本文第一行の文字の続いている部分
- 13) 界線 (罨)
- 14) 表紙以外の紙数: 全紙数 (丁数) と遊紙数
- 15) 貼紙: 付箋, 不審紙, 歌頭の紙片も記載する
- 16) 一面行数: 本文および序・跋の一面の標準行数
- 17) 刊記・奥書・識語・極札 [極書・折紙]・箱書・広告: 原則として全文, 原文通り

岩崎文庫の絵入り本について

石川 透

(慶應義塾大学教授)

奈良絵本と絵巻の文字と挿絵を比較分析し, その特徴から室町から江戸期における絵本制作の状況と作者について考察する。

1. 室町～江戸期における写本と版本の関係についての総合的研究

- ・従来の見解: 室町時代までの写本の文化が, 江戸時代の版本の文化へと置き換わっていった。
→中世文学と近世文学の研究として別々に扱われていた。
- ・新たな成果: 江戸時代前期に作成された奈良絵本・絵巻は版本から写本へ作られたものがある。
写本と版本の両方を作る人物として, 浅井了意 (仮名草子作家) や居初つな (日本史上初の女性絵本作家) 等が存在する。
- ・新しい資料を利用し, 具体的に考察することによって文学作品の創作の問題へと迫る。

2. 奈良絵本・絵巻とは

- ・1600年代を中心に作られた手彩色を施された美しい絵本や絵巻
 - 初期の素朴な絵が描かれたもの
 - 中期の本格的な大和絵に近いもの
- ・ほとんどの作品に奥書や署名が未記入→誰がいつ制作したのかも分からない謎の多い作品群
 - 近年の研究により、作品の多くが1600年代京都で制作されたことが明らかになった。
- ・制作者
 - 従来は男性の絵師や書家等の職人、絵師と書家等の分業であると考えられた。
 - 居初つな：女性、挿絵も本文も一人で制作、かわいらしい顔が特徴の挿絵
 - 浅井了意：著名な仮名草子作家が本文を書く
- ・奈良絵本・絵巻は、この十年ほどで格段に研究が進んだ分野

3. 東洋文庫蔵奈良絵本・絵巻の解説

『浦島太郎物語』(図3) 『たまも』 『しぐれ』 『むらまつ』 『まんちう』 『菅家物語』



図3 『浦島太郎物語』絵巻、江戸初期、「竜宮城」((公財)東洋文庫所蔵)

(文責：東洋文庫研究部 宇都宮 美生)